書き抜き読書ノート 2554　　2024 年 8 月 19 日

宇野重規著「西洋政治思想史」有斐閣アルマ、有斐閣 2013 年 10 月 20 日刊を読む

1．**重要なのは読むことの重視です。**
（1）政治思想史においては、「古典」と呼ばれる一連の書物があります。
（2）この場合の**「古典」とは、単に「古い本」という意味ではありません。**
（3）**そうではなく、「時代を超えて読み継がれ、つねに参照され続けた書物」こそが、真の意味での「古典」です。**

2．（1）この意味でいえば、**政治思想史とは、「古典」が読み継がれてきた歴史**です。
（2）**本書で扱うどの思想家も、自分なりに「古典」を選び、それを深く読み込むことで自らの思想を形成しました。**
（3）いわば、**「古典」を読み、そこで得られた視座や思考法をもって、自らの目の前にある現実に取り組もうとした**のです。
（4）そして**そのような彼ら、彼女らの著作が新たな「古典」となっていきました。**

3．（1）**「人文主義」とは本来、このような「古典」を読み解く知的営みの伝統**を指します。
（2）「政治的人文主義」とはとくに政治に焦点を置くものです。
（3）そこでは、古代ギリシアやローマがきわめて重要な位置を占めました。

4．（1）この場合、**「自由」や「デモクラシー」といった概念を生み出した古代ギリシアが重視される**のはもちろんですが、**ローマの重要性もこれに劣りません。**
（2）とくに**共和政時代のローマがもった権威には巨大なもの**があり、そこで強調された**「公共の利益」という理念を継承する知的潮流は、しばしば「共和主義」と呼ばれます。**

5．（1）現在、「政治的人文主義」や「共和主義」に関して、多くの研究書が公刊されており、本書はその成果をなるべく取り込むようにしています。
（2）その理由は、政治思想史を直ちに「自由」や「デモクラシー」の発展の歴史として決め付けるのではなく、むしろ**具体的な「古典」がいかに読み継がれてきたかを重視する**ためです。

6．少なくとも、**政治思想史研究においては、古典となる文献テキストの精密な読解と、その古典が書かれた時代状況や社会背景の理解が不可欠です。このことを抜きに、古典で読んだことを直ちに、自分の目の前の現実に適用すれば時代錯誤の批判を免れません。**

７．（１）これに対し、**政治哲学研究においては、現実の政治的課題に対し、哲学的基礎をもった解答を示すことが重視**されます。

（２）その場合、**現実を読み解く何らかの概念が必要ですが、多くの場合、その概念は政治思想史研究から導入されます。**

（３）とはいえ、**経済学を含め、他のいかなる専門分野からであっても有効な概念さえ見つかればいいわけです。**

８．（１）このように、政治思想史と政治哲学とは、直ちに一体であるとはいえませんが、両者がばらばらに展開されるのも生産的ではありません。

（２）本書では、**現代政治哲学で論じられる多くのテーマや概念が政治思想史の中でどのように生まれ、また変化してきたかを探る**つもりです。

（３）また、とくに Keyword として、現代の政治哲学でも強調される諸概念について解説しています。

（４）したがって、政治哲学を勉強する方にとっても、本書は有益な示唆を与えるはずです。

９．**現代を生きる人間にとって、政治思想史は尽きることのない知の源泉です。魅惑的な古典の世界へとみなさんをご案内する**ことが、本書の何よりの願いなのです。

＜コメント＞

「古典」とは何かの「定義」は注目です。「古典」をいかに読み「現代」に生かすか、「政治的リテラシー」つまり、「政治を読み解く力」は、古典を、時代背景とともにしっかり読む以外にないようです。本書は福田歓一先生の「政治学史」とともに読まれるべき名著です。是非、御一読ください。

2024 年 8 月 19 日(月)

林　　明　夫